

新図書館及び地域開放型学校図書館の整備等に係る課題の検討結果

並びに今後の図書環境の充実に向けた検討の進め方について

中野東中学校等複合施設に開設する新図書館及び地域開放型学校図書館の整備、学校図書館の機能充実に係る運営計画の策定に向けて、これまで専門家会議 学校図書館検討委員会(小学校、中学校)を設置するなど検討を進めてきたところである。

このたび、専門家会議における検討結果等を踏まえ、運営計画に係る検討業務を受託した事業者から報告書の提出があったことから、その概要を報告するとともに、今後の図書環境の充実に向けた検討の進め方を整理したので併せて報告する。

記

1. 新図書館及び地域開放型学校図書館等の運営計画に係る検討報告について

(1) 検討内容

- ①中野区図書館の現状と課題
- ②新図書館運営計画
- ③地域開放型学校図書館運営計画
- ④学校図書館運営計画
- ⑤図書館システムの要件

(2) 専門家会議

①構成

ア 学識経験者

大串夏身氏(専門分野:公共図書館) 昭和女子大学名誉教授

宇陀則彦氏(専門分野:ビジネス支援) 筑波大学図書館情報メディア系准教授

平久江祐司氏(専門分野:学校図書館) 筑波大学図書館情報メディア系教授

イ 行政職員

子ども教育経営担当副参事(図書館)

指導室長(教育)

中部すこやか福祉センター地域ケア担当副参事(子育て支援)

②開催日時等

第1回 平成30年6月25日(月)15時10分～17時 産業振興センター

第2回 平成30年7月20日(金)15時～18時 中央図書館

第3回 平成30年8月23日(木)15時～17時 中央図書館

第4回 平成30年9月11日(火)15時～17時 中央図書館

③検討内容

ア 先行自治体事例調査報告等調査内容の報告

イ 新図書館のビジネス支援について

ウ 新図書館の一般向けサービス及び参考・地域サービスについて

エ 新図書館の子育て支援について

オ 学校図書館の運営について

カ 地域開放型学校図書館の運営について

キ 新図書館の運営計画について

(3) 調査内容

①学校図書館インタビュー

学校図書館の現状把握のため、小学校・中学校の司書教諭に利用状況、課題等についてヒアリングを行った。

②ビジネス支援等の先行自治体事例調査

図書館を核とするビジネス支援、子育て支援、学校図書館との関係等の先行事例を把握するため、図書館、交流支援課、子育て支援センターで構成される塩尻市市民交流センター（えんぱーく）、図書情報館、ホール、願いごとひろば、公園、商業施設で構成されるアンフォーレ（安城市）を視察した。

③ビジネス支援に係るグループインタビュー

新図書館におけるビジネス支援への要望等の把握のため、弥生区民活動センターで実施。在住・在勤者に対してグループインタビューを行った（8名）。

④ビジネス支援事業に関する住民意向調査

新図書館におけるビジネス支援等への要望等の把握のため、区内創業支援施設利用者に質問紙調査を実施した。有効回収数 26 名。

⑤子育て支援に係る質問紙調査

新図書館における子育て支援等への要望等の把握のため、中部すこやか福祉センター、東部区民活動センターの子育てひろば利用者への質問紙調査を実施した。有効回収数 46 名。

⑥ティーンズ向けワークショップ

新図書館のティーンズルーム、地域開放型学校図書館の設備等について図書館の職場体験学習参加者（中学二年生）16名と討議した。

⑦区民を対象とする住民意向に係る郵送調査

現状の図書館利用状況、新図書館、地域開放型学校図書館への要望等を把握するため、16歳以上の区民 3000 人を対象に郵送により質問紙調査を行った。有効回収数 641 名。

(4) 報告書における主な提案内容（別紙「概要版」参照）

①課題解決型サービスの充実

課題解決型図書館の機能として、レファレンス等の通常の図書館サービスに加え、ビジネス支援、子育て支援等のテーマを重視し、蔵書構成、イベント等の方向性を明確にしたサービス展開を行う。

②滞在型利用に対する対応

図書閲覧席の確保だけではなく、学習、業務・研究等における利用などを含めた滞在型の利用等のニーズに沿った運営を図る。

③自動貸出・返却サービス等の導入

インターネットを介しての図書予約等の進展を踏まえ、IC タグを活用した自動貸出等のサービスを導入し、迅速かつプライバシーに配慮した貸出・返却等を実施する。

④相談機能の拡充

子育てアドバイザー、ビジネス支援におけるコーディネーターを置くことに

より、単なる図書貸出だけではなく、区民からの相談等への対応やマッチングが可能となる仕組みを構築する。

⑤地域開放型学校図書館の機能の明確化

学校という環境を考慮し、乳幼児親子が安心して読書ができるスペースを設置するなど、より地域と連携のとれたサービス展開を行う。また、だれでも利用できる図書サービスポイントを設置する。

⑥学校図書館の機能充実

学校図書館システム導入により調べ学習の環境を充実させるとともに、区立図書館との連携を強化するなどにより学校図書館の魅力向上を図る。また、教員、児童・生徒との関係性を重視した体制を確保する。

2. 今後の図書環境の充実

区は今回の報告書の内容を踏まえ、現在進めている新図書館及び地域開放型学校図書館の整備、学校図書館の充実に向けた取組に係る具体的な運営計画を策定する。

また、今回の報告内容のうち、滞在型利用ニーズへの対応や学校図書館の機能充実に向けた体制確保など、今後の図書館運営の全体的な考え方に及ぶ内容も含まれるため、今回報告の提案内容を加味しつつ再整理し、来年度中に区における図書環境の充実の進め方に係る全体構想を作成することとし、以下のスケジュールにより取り組んでいく。

《スケジュール案》

2019年3月	運営計画（案）作成
7月	検討委員会に係る委員公募
8月	検討委員会開催
11月	図書環境の充実に向けた全体構想（案）の作成
2020年1月	図書環境の充実に向けた全体構想の策定
2020年度	地域開放型学校図書館の設置
2021年度	新図書館の整備

目次

新図書館及び地域開放型学校図書館等 運営計画検討業務委託報告書（概要版）

I	計画策定にあたって	1
1	計画の目的	1
2	計画の位置付け	
3	計画の方向性	
	(1) 新図書館運営計画の方向性	
	(2) 地域開放型学校図書館運営計画の方向性	2
	(3) 学校図書館運営計画の方向性	
II	図書館の現状と課題（各種調査から）	3
1	区立図書館（事業報告等から）	3
2	学校図書館インタビュー	4
3	先行事例調査	
4	ビジネス支援に係るグループインタビュー	5
5	ビジネス支援事業に関する住民意向調査	6
6	子育て支援に係る質問紙調査	7
7	ティーンズ向けワークショップ	8
8	区民を対象とする住民意向に係る郵送調査	9
III	運営計画の方向性	
1	新図書館	
	(1) 施設概要	13
	(2) 蔵書・資料収集計画	
	(3) ビジネス支援サービス	14
	(4) 子育て支援サービス（児童サービス含む）	17
	(5) 一般向けサービス（地域サービス含む）	19
2	地域開放型学校図書館	
	(1) 施設概要	21
	(2) 運営の基本的な考え方	
	(3) 区立図書館サービス	22
3	学校図書館	
	(1) 学校図書館の位置付け	23
	(2) 運営の基本的な考え方	
	(3) 学校図書館の利用時間及び方法等の拡大	
	(4) 学校図書館システムの導入によるサービス拡充	24
	(5) マニュアルの作成について	
IV	（仮称）統合図書館システムの構築・運営	
1	整備計画	25
2	区立図書館システム（リプレイス）	
	(1) 整備の基本的な考え方	
	(2) 主な整備点	26
	(3) その他	
3	学校図書館システム（新規導入）	
	(1) 整備の基本的な考え方	
	(2) 主な整備点	
	(3) その他	27

未来創造プロジェクト

平成 30 年 9 月 27 日

I 計画策定にあたって

1 計画の目的

2021年度のビジネス支援・子育て支援に重点を置く新図書館の開設（中野坂上）、2020年度からの地域開放型学校図書館の開設（区立小学校）及び学校図書館システム導入や運営形態の再検討による学校図書館の機能充実（区立小・中学校）に向けて、区民の読書・情報活用環境の向上や子どもたちの読書・情報活用活動の着実な進展を図るため、従来の図書館の枠を超えた発想を採り入れつつ、持続的・効果的な運営を念頭に、以下の四点を検討しました。

- ◇新図書館運営計画（2021年開設）
- ◇地域開放型学校図書館運営計画（2020年より順次整備）
- ◇学校図書館運営計画（2020年開始）
- ◇運営計画に付随する図書館システムの要件

2 計画の位置付け

『図書館の新しいあり方』（平成21年10月）、『新しい中野をつくる10か年計画（第3次）』（平成28年4月）、『第三中学校・第十中学校統合新校、（仮称）総合子どもセンター・図書館等複合施設整備基本構想・基本計画』（平成28年9月）、『中野区教育ビジョン（第3次）』（平成29年5月）、『中野区子ども読書活動推進計画（第三次）』（平成29年5月）、『第三中学校・第十中学校統合新校等複合施設整備基本設計』（平成29年9月）等を踏まえ、今後の運営のための基本的な方向性となります。

3 計画の方向性

（1）新図書館運営計画の方向性

中野東中学校等複合施設内に整備される新図書館（最寄駅 中野坂上駅）は、中野区立図書館の地域図書館として当該建物の7階～9階に整備されます。

基本コンセプトである「区民の学びと自立を支える課題解決支援型の機能」を明確にして、地域文化を創造・発信していく「知の拠点」のもと、「課題解決型図書館」として機能させるとともに、立地等を踏まえ、ビジネス支援、子育て支援に重点を置く運営が求められます。

また、急速に変わりゆく社会に対応する継続的な学びの場として、様々な学習環境の整備や学習機会の増進を図り、人々の課題解決に取り組み、コミュニティにおける人々の協働（社会的学習）を促進することが求められます。

このため、従来の図書館の枠を超えて、創造等の体験ができる設備（モノ）や交流のためのプログラム（コトの体験）など、積極的に人々がともに学ぶための仕掛け、新図書館

の3フロア構成の特色（コワーキングスペースや子育て支援コーナー、ティーンズルームの設置など）を活かしつつ、学習体験を通じた確かな知識・技術の習得や交流・協働を促す図書館として機能することが求められます。

（2）地域開放型学校図書館運営計画の方向性

区立小学校に開設される地域開放型学校図書館は、既存の学校図書館に、一般区民が利用できるエリアを併設することを原則として整備されます。

地域開放型学校図書館は、区民が身近に利用しやすい読書環境として、また図書館活動を中核とした、子どもや地域コミュニティを支える、学びの場として機能することを視野に入れた運営が必要です。

安全性への配慮、部屋の広さの制約などを踏まえ、子育て支援の一助として、就学前の親子や児童のための蔵書・サービスに重点を置いた図書館であるとともに、区立図書館として資料検索や予約本受取等の一般区民へのサービスポイントともなります。

（3）学校図書館運営計画の方向性

区内小中学校に設置されている図書室（学校図書館）については、学校の教育課程の展開に寄与し、児童・生徒の健全な教養を育成することを踏まえ、「読書センター」、「学習センター」、「情報センター」という3つの機能が求められています。

また、平成29年の『学習指導要領』の改訂では、アクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び）の視点からの授業改善、デジタル化の進展に伴う情報活用能力（プログラミング教育含む）の育成、学校教育の目指すところを社会と共有・連携しながら実現させることなどが強調されました。これらを踏まえ、ICT環境を整備するとともに、「学校図書館指導員」には、学校図書館を通じて情報提供の面から教育活動を支援することが今以上に求められます。

II 図書館の現状と課題（各種調査から）

1 区立図書館（事業報告等から）

中野区立図書館の『中野の図書館（事業報告書）』平成 29(2017)年度版によれば、区立図書館合計で蔵書冊数は 980,218 点（中央図書館は 504,670 点）、登録者数 54,845 人（登録率 13.4%）、図書資料の貸出数 1,924,483 点となっています。

区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
中野区人口	315,003	318,530	323,688	326,839	329,577
利用登録者	77,229	76,894	58,855	62,519	54,845
区民登録者数	61,058	60,507	46,924	49,937	44,293
登録率 (区民登録者数/中野区人口)	19.4%	19.0%	14.5%	15.3%	13.4%
年間貸出冊数(個人)	1,905,052	1,903,278	2,000,772	1,814,631	1,924,483
登録者1人当りの貸出冊数 (貸出冊数/利用登録者数)	24.7	24.8	34.0	29.0	35.1

※ 各年度の「中野区人口」はそれぞれ翌年度4月1日現在(例:29年度は30年4月1日現在)

また、電子的な資料提供については、

○中野区立図書館デジタルアーカイブ

インターネットを通じて『中野区史』などのデジタル資料を提供しており、下表（平成 29 年 6 月～平成 30 年 5 月まで）のページ閲覧がされています。

分類	ページビュー数	備考
図書	12,269	書誌やコレクションのページでカウント
映像資料	2,491	書誌やコレクションのページでカウント
トップページ	5,786	—
その他	2,614	検索結果のページなど

○なかの いーぶっく すぽっと

スマートフォンやタブレットで電子図書が閲覧できるサービス「なかの いーぶっく すぽっと」で、デジタル絵本や名作文学が提供されています。

29 年度については、一般向けエリアで 114,200 ページ、児童向けエリアで 71,700 ページが利用されています。

2 学校図書館インタビュー（白桜小、第五中）

司書教諭に、学校図書館の現状・課題について、インタビュー調査を行いました。以下は、インタビューをもとにした考察内容です。

- 貸出方法は、両校とも貸出カード方式で、今後図書館システムが導入されることにより、児童生徒の読書記録等のプライバシーについて改善されると思われます。
- 館内のディスプレイ（陳列方法）も工夫され（新着図書案内、特集だな、図書委員おすすめ本のお知らせ等）、昼休みの利用は多く、特に雨の日は両図書館とも普段の倍以上の入館者数となっているなど、児童・生徒の「居場所」として機能しています。
- 白桜小学校では 4・5 年生は隔週で、6 年生は毎週、「読書」の時間を設け、授業の一環として学校図書館を活用しています。
- 第五中学校では「ビブリオバトル」を「読書旬間」の行事として全校をあげて実施しています。これらは、学校図書館の「読書センター機能」としての側面です。
- 「学習・情報センター機能」の面では、学校図書館を授業でさらに活用してゆける可能性がうかがえました。
- 学校図書館指導員（月 16 日、1 日 4 時間勤務）の休みの日は学校図書館が休館日となるなど、補うことができれば機能の拡充につながる点についての示唆がありました。

3. 先行事例調査

新図書館の運営計画検討を進めるにあたり、本検討業務の重点項目である「ビジネス支援」、「子育て支援」を実施している図書館への先行事例調査を行いました。以下は訪問調査の所見です。

日程	場所
平成30年5月29日	塩尻市立図書館（えんぱーく内）
平成30年5月30日	安城市図書情報館（アンフォーレ内）

(1) 図書館の一般・地域サービス

市民活動や仕事に有効である、音楽スタジオや 3D プリンタなどの機器がある施設などが併設されており、図書館との動線を意識して複合施設が作られていました。図書館だけでサービスをしようとするのではなく、他施設を有効活用することによって、くらしと仕事に役立つ図書館を実現することの重要性が示唆されていました。

また、自動貸出機や電子新聞が利用できるタッチパネルディスプレイなどが提供されており、セルフサービスによる効率的なサービスや、幅広い情報源の利用について、その実現可能性が充分にあることが示されていました。

(2) ビジネス支援

情報とは紙媒体に限らず、デジタル資料、イベント、情報を持つ人（相談員またはイベント講師）などあらゆるモノ・コト・ヒトを紹介します。それらの膨大な情報を体系的に見せ、利用者が求める情報にたどり着きやすくなる仕組みが、設備、人的サービスの両面において必要であることが示されていました。

また、利用者の状況は様々で、求める情報は人それぞれです。地域に居場所を作りたい、子連れでも安心して働きたいなど、一人ひとりのニーズに適切に応えるための仕組みの必要性が示されていました。

さらに、参考資料を用いたビジネス相談、書籍を軸にしたイベントの開催、あらゆる情報を網羅・把握・活用できる人材の配置などが考えられます。

(3) 子育て支援

子育て支援センター等が併設されているため、図書館としての子育て支援以外の、子育て支援サービスも同じ施設で利用しやすくなっています。例えば「えんぱーく」では図書館と子育て支援センターがイベントで連携しているように、施設や併設サービスの連携の必要性が示唆されていました。

また、育児や子どもの読書支援などの多様な子育て支援の資料収集と日本十進分類法（NDC）横断的な配架、想像力を育むものの展示、児童向けのロボットプログラミング講座などのプログラム、読書通帳の取り組みなど、多様な子育てに有効な仕掛けがあり、新図書館の方向性と類似しており、運営計画の具体化の際に反映できるものでした。

(4) 学校支援

学校司書の派遣だけでなく（安城市では各学校に学校司書を配属）、「学校図書館アドバイザー」といった教育委員会の専門員が学校図書館を訪問支援する取り組みを行っており、公共図書館や各学校図書館をつなぐ人的サービスがあり、公共図書館の学校支援や学校図書館の運営について示唆がありました。

また、安城市では、公立図書館と学校図書館のシステムの一体運用とそれとともなって開始した、公共図書館の本を学校の教員や子どもたちに貸し出す定期配送サービスを運用しており、学校への貸出用資料の確保もされていました。こうした取り組みの結果、利用が開始前と比べ2倍以上増加しています。

4. ビジネス支援に係るグループインタビュー

弥生区民活動センターを会場に、多様な働き方に興味がある在住者・在勤者8名にグループインタビューをした際の意見・所見は以下のとおりです。

(1) 図書館の利用状況

頻度は高くないものの、必要に応じて利用する人が多くいました。目的は、資料閲覧、趣味の本を探す、専門書のバックナンバー利用、子どもを連れての利用など様々です。

(2) 「場」という考え方

ビジネス支援について、情報、人が集まる空間を求める声が多くありました。また、ブックカフェのように飲食可能で居心地の良い空間、スキルアップにつながるセミナーの開催、若年層・シニア向けの就職支援の必要性などについて意見が出ました。

(3) 「相談できる人」という考え方

何を聞けばよいかわからない方へのアプローチ方法について、固定の曜日・時間・テーマを設ける、利用者の貸出履歴から傾向を読み取って相談に乗るなどの意見が出ました。

「相談できる人」がいることの利点として、自分で調べるより聞いたほうが迅速な解決につながることで、図書館外にある適切な情報や場所に導いてくれることなどが挙げられました。

(4) 図書館のビジネス支援をもっと知ってもらうには

施設名に「図書館」を入れないことで図書館が持つ固定概念を払拭できるのではというものや、その図書館ならではの特色を出していくこと（地域性）、コワーキングスペースに集まった人たちに対して実証実験を可能にすること、若年層への早期キャリア意識の醸成、図書館側からの情報発信（メールマガジン等）などが挙げられました。

(5) さいごに

紙の本を手取る機会が減った今だからこそできる図書館のあり方や、副業を始めとする「今の自分にできること」という観点で働き方のきっかけ作りをしていくこと、図書館からの積極的な情報発信、情報と人をつなげる機能（相談できる人）が揃った「場」の必要性など、参加者それぞれが利用者の視点で自由に意見を述べました。

5. ビジネス支援事業に関する住民意向調査

多様な働き方に興味のある在住・在勤・在学の方のうち、区内創業支援施設の利用者（26名）を対象に、質問紙調査を開催しました。以下はその所見です。

(1) コワーキングスペースを望む声

議論しながら、ときに飲食しながら利用できるコワーキングスペースを望む声が多く、図書館においてそれを望むということは、より気軽に、低コストで利用できる作業場のニーズが高いことがうかがえました。

また、外出先で気軽にかつ集中してPCで作業できる環境が不足していることや、オフィスが狭い企業で社内が落ち着かない場合、外部で作業がしたいといった需要があることに関係している可能性があります。

(2) 情報発信手段を狭めない

スマートフォン用アプリについては、好きな時間に場所を選ばず情報収集できるため、

好意的な意見が多く見られました。一方で、メールマガジンの配信については否定的な意見の方が多くありました。

SNSをはじめとする様々な連絡手段が増えているため、メールという手段を使っていない人が増えてきていることに関係している可能性があります。しかし、全年齢が利用対象である新図書館においては、情報発信手段を極端に狭めるべきではないと考えます。

(3) 利用者が自分のペースで調べられる環境づくり

オンラインデータベースの使い方講座に関しては、実際に参加するための時間を割けない、または参加する必要性を感じないと考える人が多い可能性があります。

Webで使い方を説明したり調べることができたりする等、利用者が自分のペースで調べられる環境づくりが必要と思われます。

(4) さいごに

今回の運営計画の柱でもある相談機能全般について、やや否定的な意見が目立ちました。特筆すべきは、「現在の働き方、将来の進路等に関する相談ができる」の評価が低かったことに對し、「さまざまな職業に関する情報取得や相談ができる」については好意的な意見が比較的多かった点です。

「人生相談を受けています」といった雰囲気では、利用者にとっては相談したくてもしにくいかもしれません。まずは相談カウンターに立ち寄ってもらえるよう、受け付ける相談内容についても比較的軽いもの（職業はどんな選択肢があるのか、区内または区外にどんな施設や企業があるのか等）を提示したり、同時に相談員の側から利用者に働きかける機会も設け、フロア全体の活気ある雰囲気づくりに力を注ぐべきなのではないかと考えられます。

6. 子育て支援に係る質問紙調査

中部すこやか福祉センター・東部区民活動センターの子育てひろばを訪問し、その利用者（46名）を対象に、質問紙調査を実施しました。以下はその結果及び所見です。

(1) 提案への反応

運営計画の方向性として設定した子育て支援事業に対応する提案について、全般的に必要な度合い（6段階）が4.3以上の好意的な結果が得られました。該当の調査対象全般に求められる機能と考えられます。

(2) にぎやかな場と静かな場のゾーニング、交流や体験の機能

5以上のものをみると、にぎやかな場と静かな場のゾーニング、交流や体験の機能、創造力を養う効果、遊びの要素を入れたイベント、気軽に参加できるイベントなど、想定通りです。託児サービスについても、4.8以上と高い数値でした。

7 ティーンズ向けワークショップ

区立中学校に通う2年生（図書館の職場体験学習参加者）16名にワークショップ形式で意見を聞きました。以下はその内容です。

(1) 図書館の利用状況

16名中8名が図書館を利用しており、本の利用、居心地（資料や辞書を使った勉強、静かさや涼しさ、ゆっくりと本が読める）、アクセスのよさ、他の人が薦める本の読書（図書館のポップや友だちなど）などの理由が挙げられました。

また、8名が利用しない理由として、家から遠い、忙しくて時間がない、公共図書館以外からの本の入手または公共図書館に読みたい本がない（学校図書館や購入、または読みたい本がない）、本を読むことが少ないまたは好きではない、他の場所で遊ぶなどの理由が挙げられました。

(2) 新図書館のサービス（ティーンズルーム含む）

多様なコレクション（洋書、マンガ、さらにはカードゲーム、ボードゲーム、テレビゲーム、問題集、DVD、電子書籍、自作の小説展示）、サービス（勉強の手伝い、カフェやコンビニ、ドリンクバー、文房具の販売などの併設サービス）、設え（個室や複数人で利用する部屋、談話室、読書室、運動スペース、くつろぎスペースなどのゾーニング、ソファやクッション、毛布、寝られるイスなどのアメニティの工夫、電子キーボードやジグソーパズルなどの参加型の仕掛けなどの人の集まる工夫、図書館脱出ゲームや昔のDVDの鑑賞会といったプログラムなどが挙げられました。

(3) 情報機器の充実

PCやタブレット、そして電源やWi-Fiなどの情報機器の充実化を求められています。スマートフォン等のデバイスを利用しやすしたり、スペース等に起因するコレクションの少なさを補ったりできるものであり、ティーンズの学びのため有効なことと考えられます。

(4) 多様なコレクション

洋書が挙げられ、外国語の図書を読みたいティーンズがいることがわかり、語学教育のため充実化を推進することが考えられます。

また、マンガやライトノベル、さらにはゲームなど、現在の中野区立図書館では所蔵していない、幅広い資料の要望がありました。

(5) 居心地をよくする、設えや併設サービスの充実化

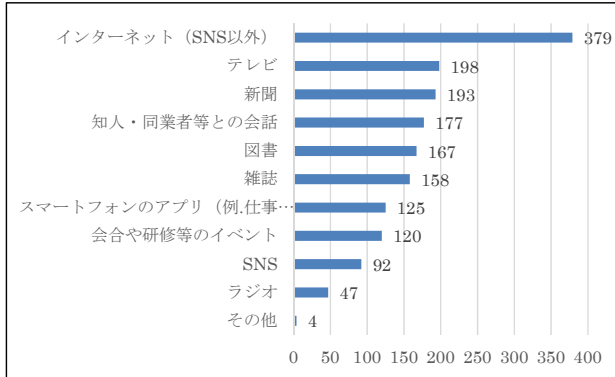
ゾーニングにより様々な場を設けることや、カフェや自動販売機、コンビニ、軽食、文房具などの併設サービスを設けること、家具や調度品の工夫により、図書館で快適に過ごすための様々なアイデアが出されました。電子キーボードやジグソーパズルなどの参加型の仕掛けなど、人の集まる工夫も挙げられ、導入を検討する必要があります。

8. 区民を対象とする住民意向に係る郵送調査

16歳以上の区民3,000人（無作為抽出）に郵送調査を行い、641人の回答がありました。以下はその集計内容です。

(1) 情報取得手段（仕事の情報の取得方法）

仕事の情報の入手手段（子育て支援に係る入手手段も同傾向）は、インターネットが圧倒的に多く、テレビや図書、雑誌なども比較的大きな数値となっており、有用な仕事の情報の入手手段になっていることが読み取れます。



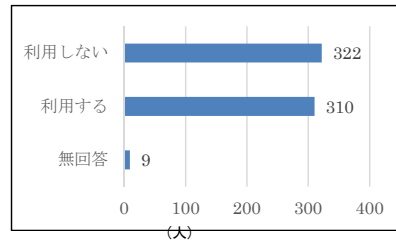
また、知人・同業者等との会話も、比較的高い数値です。各種メディアとともに、人と交流して情報を得て、仕事の課題解決に役立てる、ということに効果があることを示していると考えられます。この交流は、ビジネス支援の課題解決型図書館として持つべき機能であることを示唆していると考えられます。

(2) 区立図書館利用状況

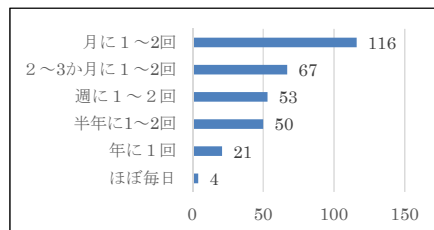
① 利用の有無

利用する人、利用しない人が、回答者のほぼ半数ずつを占めていました。

利用中の方が現在の図書館の状況を踏まえて回答した意向を把握できます。

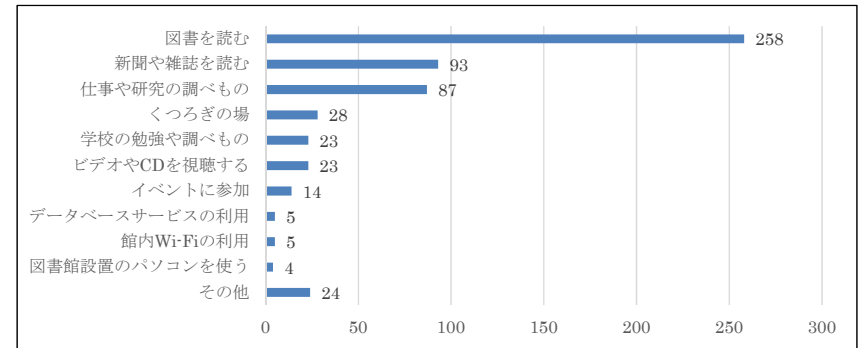


② 利用頻度・目的



月に1~2回が116人と一番多く、週に1~2回と頻度が高い方も53人おり、ヘビーユーズからときどき使う方まで、様々な利用頻度の方の意向を調査することができました。

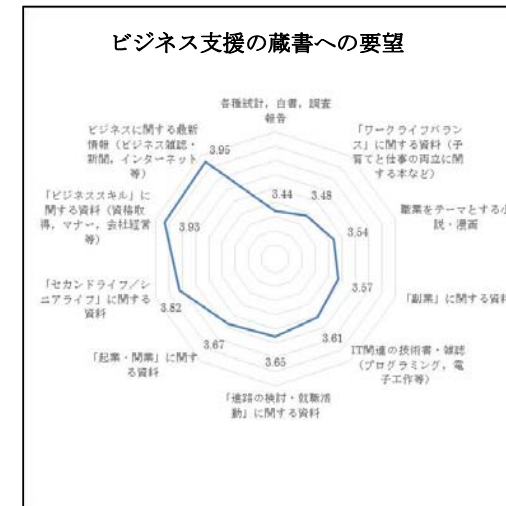
9



利用目的は、図書、新聞、雑誌を読む方が圧倒的に多いとともに、仕事や研究の調べものをする方も比較的多い人数を占めていました。現在も、仕事のための利用をしている人たちがおり、こうした図書館の価値を高めることは有用であると考えられます。

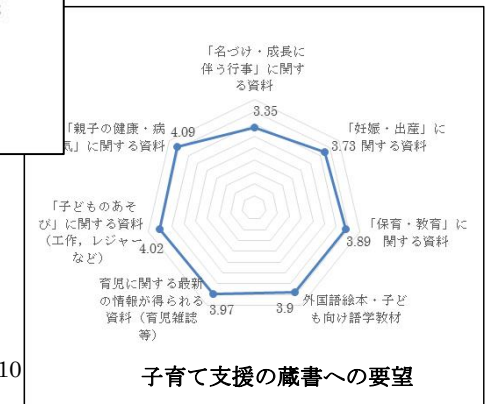
利用しない理由は、「購入する」、「時間がない」、「アクセス」などが多くありました。

(3) 新図書館及び地域開放型学校図書館に望むこと



いずれも、5段階で尋ねたところ、すべて3を超えており、好意的な意見となりました。特に最新の情報、ビジネススキルの資料は高い数値であり、関心の高さが伺えます。

また、「最新の情報」が高いことはビジネス支援、子育て支援の両方に共通しており、2種の課題解決のために必要な要素と考えられます。



10

望む図書館サービス（①全体、②子育て中、③在職、④図書館利用なし）

項目	①	②	③	④
1. 本がジャンル別に並べられており、必要な資料を探しやすい	73.95	76.22	76.02	72.67
2. 職員に気軽に相談できる雰囲気がある	65.52	69.23	64.45	64.91
3. 自動貸出機等により自分で資料の貸出・返却ができ、便利	57.72	67.13	61.46	60.56
4. 持ちこんだパソコンで作業しやすく、仕事などに役立つ	56.16	69.23	64.03	56.21
5. ネットを気軽に利用でき、多様な情報を得ることができる	46.49	51.75	50.75	49.38
6. 他の行政サービスなどを、必要に応じて紹介してくれる	46.33	44.76	45.40	48.14
7. 定年後の余暇活動のための情報を得て、活用してゆける	46.02	41.96	45.40	44.10
8. 赤ちゃん向け絵本のコーナーなどがあり、子どもと本との出会いの場として図書館が役立つ	45.71	72.03	49.25	43.79
9. 電子資料が利用でき、多様な読書スタイルで資料を利用できる	43.37	51.75	49.04	41.61
10. 話しあいながら、調べものや学習ができるスペースがあり、複数人での作業ができる	42.59	56.64	45.61	43.79
11. CD・DVDを視聴でき、様々なメディア利用をして快適に過ごせる	39.47	41.96	40.47	40.99
12. 新聞記事検索や企業情報に関するデータベースを利用でき、仕事に役立つ	38.07	39.86	42.40	35.40
13. イベント等の情報を訪問前にインターネットを通じて知ることができ、事前情報により図書館を便利に利用できる	37.75	48.25	41.97	35.09
14. ネットを通じて、イベントや会議室等施設の予約ができる	36.66	50.35	42.61	34.78
15. 地域関連のコレクションや、地域の情報を知ることができる	34.48	37.76	35.33	32.30
16. 本だけでなく、工作や実験の設備・催しがあり、効果的に学べる	31.67	46.15	32.76	31.37
17. 3Dプリンタが活用できる等、発想を広げる様々な仕掛けがある	31.67	42.66	34.26	31.37
18. 子育てや家庭教育に関する講座、親子で参加できる講座などのイベントが開催される	31.20	50.35	31.91	29.81

項目	①	②	③	④
19. 本の探索やイベント参加のときに、託児サービスを利用できる	30.89	39.86	32.12	32.61
20. 飲食しながら交流したり、靴を脱いで遊んで過ごしたり、くつろげるスペースがある	30.73	41.96	33.40	31.06
21. プログラミングやコンピュータグラフィックス制作講座などで、情報処理能力のスキルアップができる	29.49	36.36	31.26	29.50
22. 大活字本や音訳機、さらに対面朗読サービス（指定された資料を朗読するサービス）などが整備され、誰でも快適に図書館を利用できる	28.71	34.27	29.55	27.64
23. 仕事のスキルアップや、起業・就業など、人生設計についての相談サービスや講座がある	28.08	23.78	28.69	29.81
24. 学習、趣味、サークル、仕事などの発表等ができる場がある	27.46	32.87	26.77	27.64
25. 子育てや仕事における課題解決を支援してくれる職員がいる	27.15	28.67	26.12	28.88
26. 自分の経験（仕事・趣味など）を活かし、図書館ボランティアとして活動できる	23.56	26.57	23.34	23.60
27. 交流会等に参加することで友人や仲間をみつけることができる	22.78	20.28	22.48	21.12
28. 読書会・本の交換イベントなどで、読書体験を共有できる	22.78	25.87	22.70	19.88
29. 情報化社会において安全に情報を活用していくための講座がある	20.59	21.68	18.63	18.94

特に仕事をしている方、子育て中の方の数値にゴシック（赤字）が多く、今回の計画案のサービスが課題解決支援機能として効果的なものであることが伺えます。

また、図書館を利用していない方の数値をみると、自動貸出機によるセルフサービスやインターネット利用環境に、目立ったものがみられました。これらのサービスにより、住民へのサービスとして効果的なものを展開し、利用率の向上などの効果があると考えられます。

Ⅲ 運営計画の方向性

1. 新図書館

(1) 施設概要

①所在地

中野区中央一丁目 581 番地 4 (旧第十中学校)

②規模等

1 階 エントランス
7～9 階 図書館の 3 フロア (7 階：親子・中高生向け 8 階：一般向け
9 階：ビジネス支援)

蔵書 約 17 万冊 (閉架 7 万冊、開架 10 万冊)

閲覧席等 約 300 席 (滞在型サービスへの対応)

③開館時間等

9 時から 21 時 (休館日 毎月第 2 木曜日)

④施設運営

中野区立図書館指定管理者

(2) 蔵書・資料収集計画

ビジネス支援・子育て支援に特色を持つ課題解決型図書館として、該当テーマのノンフィクションの収集に重点を置くことが望ましいと考えます。

新図書館では、蔵書約 170,000 冊 (子ども向け 40,000 冊、ビジネス向け 7,000 冊を含む) を確保することを目指し、資料収集を行うことが求められます。

小説等より、技術書、育児、教育、ビジネス、語学等の蔵書を重点的に収集することで特色を出す必要があります。

また、持続的に資料の更新が必要であることから、幅広い雑誌購入も求められます (雑誌記事検索のデータベースを導入し、過去の情報の活用もできるよう整備することが重要です)。

地域資料は、公共図書館として収集し、特に芹沢氏関係の資料は、幅広く収集し、地域の利用者のニーズに細やかに応えていくことが求められます。

◆ビジネス支援

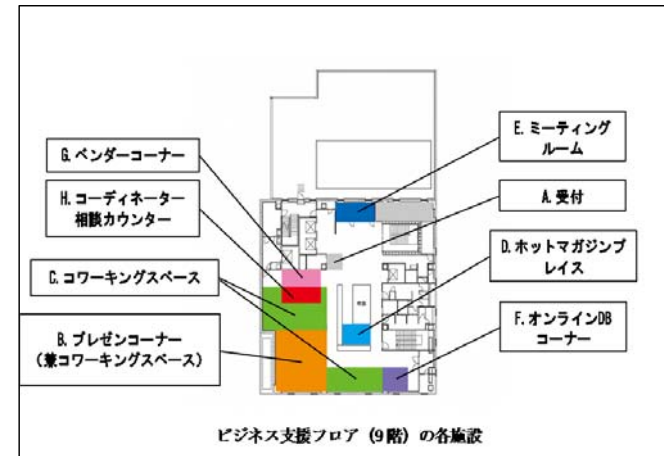
ビジネスに関する最新情報 (ビジネス雑誌・新聞)、「ビジネススキル」に関する資料 (資格取得、マナー、会社経営等)、「セカンドライフ/シニアライフ」に関する資料、「起業・開業」に関する資料、「進路の検討・就職活動」に関する資料、IT 関連の技術書・雑誌 (プログラミング、電子工作等)、「副業」に関する資料、職業をテーマとする小説・漫画、「ワークライフバランス」に関する資料 (子育てと仕事の両立に関する本など)、各種統計、白書、調査報告を収集することが求められます。

◆子育て支援

「親子の健康・病気」に関する資料、「子どものあそび」に関する資料 (工作、レジャーなど)、育児に関する最新の情報が得られる資料 (育児雑誌等)、外国語絵本・子ども向け語学教材、「保育・教育」に関する資料、「妊娠・出産」に関する資料、「名づけ・成長に伴う行事」に関する資料を収集することが求められます。

(3) ビジネス支援サービス

新図書館のビジネス支援では、従来の図書館が持つ機能・役割を発展させ、区民一人ひとりが「多様な生き方の選択肢」を知り、自らが考え、行動できるようにするための動的な支援 (ワーク・ライフ支援) を行っていくよう計画する必要があります。



B プレゼンコーナー

通常はコワーキングスペースとして機能させるものとし、レイアウト変更を容易にできる流動的なスペースとすることで、各種イベントや利用者の発表の場としても使用することができます。

壁面にはプロジェクタ投影を行うためのスクリーン設置が必要です。一部に常設展示スペースも設け、イベント参加者の作品展示や区内事業者の「テストマーケティング」の場として機能させることも考えられます。

C コワーキングスペース

電源、Wi-Fi、コピー機 (有料) などを完備し、快適な作業空間を提供しなければなりません。また、コワーキングスペースは打合せ等の音を伴う作業も可能とする必要があるため、該当スペースを中心に BGM (バックグラウンドミュージック) を流したり、定期的にイベントや展示会を開くことで「交流」が自然に行われる空間作りを目指す必要があります。特に集中して作業をしたい利用者には、奥の間仕切りのあるブースへ誘導することで棲み分けを行うなどの対応が求められます。

E ミーティングルーム

予約制の複数人での作業も可能な個室であり、またサークル活動や学校行事の準備などに活用する学生や、地域活動をする中高年・シニアなど、様々な利用者が部屋を利用できる必要があります。

このため、Web サイトで利用者が空き状況を確認できる、かつ Web サイトに設置した予約フォームから必要事項を入力し申し込めることが必要です。

F オンラインDB（データベース）コーナー

例えば、「日経テレコン」などのビジネス情報を調べられるもの、「マガジンプラス」のように雑誌記事（ビジネス情報を調べるため雑誌も有効な情報源です）のオンラインデータベースを契約し整備することが必要です。利用者に有効活用してもらえるよう、忙しいビジネスパーソンでも参加しやすい、使い方のショートセミナーを開催したり、連動する文献複写サービスなどのPR も行うことが求められます。

G ベンダーコーナー

利用者がカフェのような雰囲気でも快適に過ごせるようフロア内の一部について飲食可能とし、飲食の提供スペースを用意することが求められ、例えば、無料のウォーターサーバーの他、自動販売機（飲料、食品）を設置するコーナーが必要です。

H コーディネーター相談カウンター

コーディネーターが、起業・創業、将来の進路、現在の働き方など、利用者が抱えるワーク・ライフに関する相談に対応し、相談内容によってコレクション等の案内も行うことが必要です。

また、専門的相談が必要な場合は、適切な公的または民間の支援先（インキュベーション施設、特化型コワーキングスペース、雇用・労働相談窓口等）と連携を図り、外部の専門機関等を紹介するなど、利用者の要求に応えるサービス（レフェラルサービス）を行うよう運営を考慮します。

さらに、ビジネス支援フロアに関わる人たち同士の適切なネットワークの構築、ビジネス支援フロアの利用者同士、または利用者と外部機関（公的機関や企業など）との適切なマッチングを行う機能が重要です。

《各種イベントの開催》

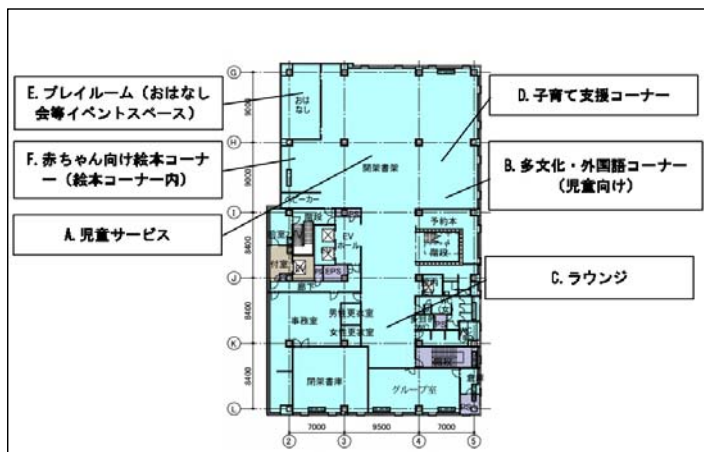
利用者がワーク・ライフをデザインする上で必要なきっかけ・専門知識・人とのつながりなどを提供する様々な形式のイベントを開催することが必要です。

ビジネス支援のイベント例

テーマ	ターゲット	テーマ詳細（例）
キャリア	低年齢	聞かせて！プロフェッショナル
	ティーン	働く若者クロストークセッション （スポーツ選手、学生起業家等）
	若者	兼業起業家トークショー
	ミドル・シニア	話題のトピック紹介 時事ネタセミナー
STEM 教育 （科学・技術・ 工学・数学に重 点）	低年齢	キッズプログラミング教室
	ティーン	ゲーム作成講座
	若者	わかるともっと楽しくなる文系脳向け数学講座
	ミドル・シニア	シニアプログラミング講座
クリエイティ ブ	低年齢	親子で楽しむ工作ワークショップ
	ティーン	若手クリエイターから学ぶ動画・デザイン講座
	若者	ビジュアルコミュニケーション講座
	ミドル・シニア	写真の取り方&SNS 活用術講座
ビジネス支援 フロアの PR	-	プロのお笑い芸人によるお仕事漫才またはコント 話題の書籍の著者によるトークショー
	-	ワークショップ・講座で制作した作品の成果発表会& 交流会
ネットワー キング（交流）	-	先輩から話を聞こう！大学生×社会人交流会
	-	趣味でつながるミートアップイベント
	-	地域を知ろう 中野区民限定交流会
	-	

(4) 子育て支援サービス（児童サービス含む）

中野区の人々の充実したワーク・ライフのため、資料提供等や情報サービスはもちろん、子育てに有効なプログラム等を展開することが必要です。児童サービスを基本に据えるものとしての運営が必要です。



親子、中高生向けフロア（7階）の各施設

A フロア全般（児童サービス）

フロア全般で児童書を配架し、児童サービスを行うフロアとして、読み継がれてきた基本的な図書を揃えての読書支援とともに、協働的・主体的学習（アクティブラーニング）に利用しやすい環境整備やプログラム実施を行うことが必要です。また、展示コーナーを中心に、季節に応じた展示を行い、子どもたちの想像力を膨らませ発見を促す仕掛けづくりを行うようサービスを計画することが望まれます。

B 多文化・外国語コーナー（児童向け）

外国語絵本等の外国語の児童書を所蔵することが求められます。また、子どもたちの語学への支援として、フロア内で提供するインターネット閲覧用PC（タブレットなど）で語学教材（音声で学べるアプリやオーディオブック等）も提供、外国語やピクトグラムのパンフレットやサインも作成し設置する必要があります。

C ラウンジ

ラウンジでは飲食可能とし、子育てをする方同士の対話の場等として運用することが必要です。

D 子育て支援コーナー

7階フロアに「子育てアドバイザー」を配置し、子育て支援のためのコーナーを設置することが必要です。

また、子どもの名づけ等に関わる育児関連書、教育、工作（おりがみなど）、レジャーの本など、子育ての様々な場面で使う資料を、わかりやすいサインとともにコーナーに配架することが求められます。子育て支援のプログラムの情報の掲示や、中野区内関連施設のパンフレット等の配布、中野区の子育て関連のサークルや施設の情報などを手に入れることができるコーナーとして運用することが重要です。

E プレイルーム（おはなし会等イベント用スペース）

おはなし会などの行事を中心に、各種イベントを行うコーナーとなると考えられ、親しみやすい名前を付けることが必要です。例えば、安全な滑り台等の遊具も設置し靴をぬいで安心してくつろげるスペースとすることも考えられます。この場合には安全性への配慮に留意しなければなりません。託児サービスで利用する運用も重要な要素です。

F 赤ちゃん向け絵本コーナー（絵本コーナー内）

絵本コーナー内に、子育てにおいて乳幼児に手渡したい本を揃えた赤ちゃん向け絵本コーナーを設置することが必要です。

《各種イベントの開催》

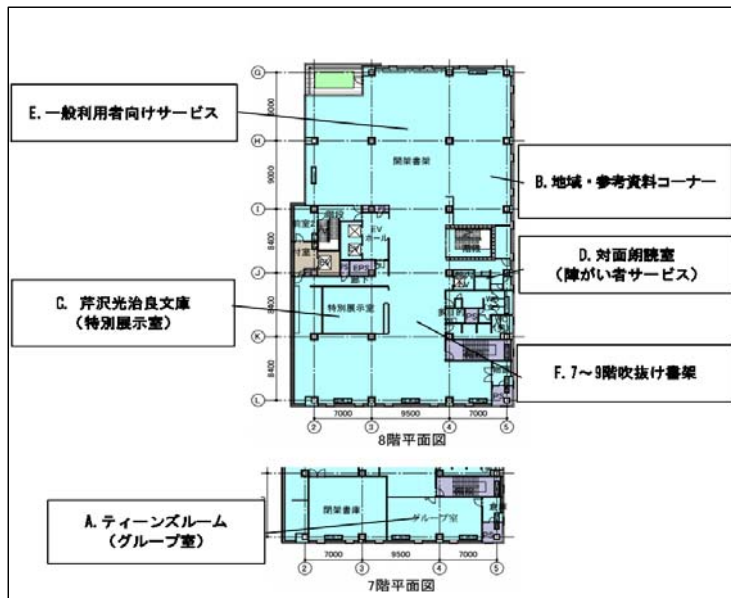
子育て支援のイベント例

テーマ	ターゲット	テーマ詳細（例）
読書	幼児～小学生	電子書籍を読んでみよう
	親子	親子で楽しむわらべうた
	中学・高校生	電子書籍を作ってみよう
情報リテラシー教育	親子	SNS 講座：安全・安心して使うには（親子向け）
	中学・高校生	SNS 講座：安全・安心して使うには（中高生向け）
教育・学び	幼児～小学生	調べる学習にチャレンジ（小学生向け）
	親子	多文化共生について学んでみよう
	中学・高校生	調べる学習にチャレンジ（中学生向け）
語学	幼児～小学生	外国語お話し会
	親子	
児童・ティーンズサービスのPR	中学・高校生	図書館で朝活：日本語ベストセラーの洋書を読んでみよう
	幼児～小学生	図書館でプロジェクションマッピングを体験
	親子	ぬいぐるみおとまり会
	中学・高校生	館内でインスタ映えする SNS 用の写真を撮ろう

テーマ	ターゲット	テーマ詳細 (例)
参加型講座	親子	図書館を探検しよう
	中学・高校生	図書館脱出ゲーム
子育ての課題に関すること	子育て世代	子育て講座：子どもに上手に伝えるしつけ (関連機関との連携を想定)
キャリア	子育て世代	ライフプラン講座
クリエイティブ	子育て世代	オシャレな図書館バッグをつくろう
サービスのPR	子育て世代	子育てアドバイザーによる図書館活用講座
ネットワーキング	子育て世代	子育てママ・パパのブック交換 (本の交換イベント)

(5) 一般向けサービス (地域サービス含む)

コミュニティ施設として、中野の人々が豊かな生活を確保するために核となる図書館メニューは、一般、参考・地域サービスです。中野区がめざす図書館像及び4つの目標に沿ってサービスを構成する必要があります。



一般向けフロア (8階) 及び7階ティーンズルーム

A ティーンズルーム

中高生を中心とする10代向けのスペースとして運用することが必要です。学習室として使えるだけでなく、社会に必要な知識技術を身に付けていくために、創造的体験を促す、3Dプリンタや3Dスキャナなどの設備を持つ「ミニファブラボ」の設置を検討します。また、1時間ごとに職員が巡回するなどし、セキュリティに配慮する必要があります。

B 地域・参考資料コーナー

地域の人々・団体が発行等をするパンフレット等のいわゆるファイル資料や映像資料、写真等も含め、地域資料を網羅的に収集することが必要です。

また、「地域を知るコーナー」を設け、ゆかりの作家や、史跡等の地図、年表、観光資源の情報を掲示するなどして地域の情報の発信の場を設けることが考えられます。

C 芹沢光治良文庫 (特別展示室)

区民団体と連携するなどしながら、新たな芹沢関連資料 (関連情報の索引等) の作成し、当施設の価値を高める運用を行うことが求められます。芹沢光治良記念館の図録など、関連資料の拡充を進めることが必要です。

D 対面朗読室 (障がい者サービス)

障がい者の図書館利用の環境を整えることが必要です。例えば、デージー資料やOCR (光学的文字認識) による読み上げ機器 (例: よむべえ) などの設備があります。中央図書館と協働し電子図書館でのオーディオブック等の提供も検討していくことが必要です。

《各種イベントの開催》

テーマ	ターゲット	テーマ詳細 (例)
読書	若者	ビブリオバトル
	ミドル・シニア	タブレットで電子書籍を読んでみよう
情報リテラシー教育	若者	フェイクニュースについて学ぼう
	ミドル・シニア	SNS講座:安全・安心して使うには
学び・調査研究	若者	データベースの使い方を学ぼう
	ミドル・シニア	タブレットで情報を探してみよう
語学	若者	TOEICで高得点をねらおう
	ミドル・シニア	洋書でビブリオバトル
参加型講座	若者～シニア	「図書館パートナーズ」養成講座
クリエイティブ	地域に関心ある方	地域の触地図をつくろう
		ウィキペディアタウン
ネットワーキング	地域に関心ある方	まちあるき

2. 地域開放型学校図書館

(1) 施設概要

①整備年次（予定）

2020年	江原小学校、みなみの小学校、美鳩小学校
2021年	中野第一小学校
2022年	新井小学校・上高田小学校統合新校
2023年	鷺宮小学校・西中野小学校統合新校、南台小学校、平和の森小学校

②開放時間等

学校図書館に隣接する形で区立図書館分館部分を設置することを基本に、開校中は区立図書館分館部分のみ開放、休日等は学校図書館とあわせ開放することが、教育課程とも整合しやすいと考えられます。

月曜日～金曜日	9時～20時（分館部分のみ開放）
土曜日	9時～20時（分館部分、学校図書館部分とも開放）
※開校日は平日と同様の取扱い。	
日曜日・祝日、長期休業等	9時～20時（分館部分、学校図書館部分とも開放）

③蔵書数（学校図書館とは別途整備）

3,000～5,000冊（乳幼児向け図書1,000冊、絵本1,500冊、子育て向け一般図書500冊）程度を想定。

④施設運営のための人員確保

業務内容は、カウンター周辺及び日常サービス業務、資料整理業務、レファレンスサービス、情報リテラシー支援、展示・館内の装飾、講座・イベント、広報活動等があります。

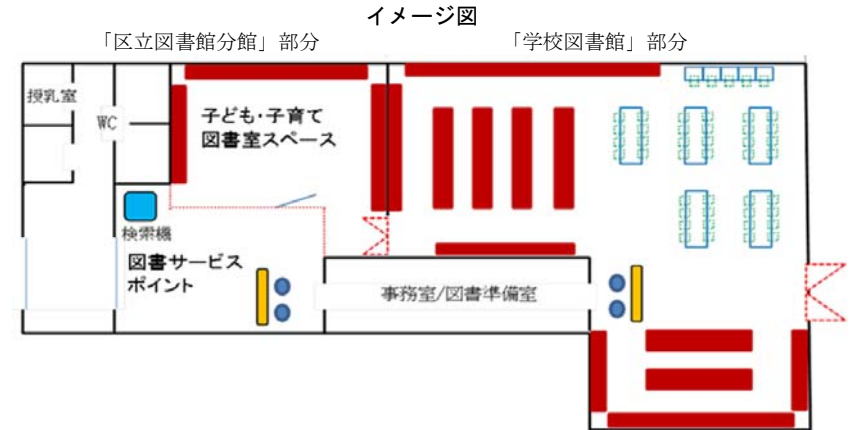
⑤（仮称）学校図書館コーディネーターの配置

各館の運営、イベント等の支援、勤務者の管理等を踏まえ、各館の質を担保するための巡回管理を行う。なお、コーディネーターは学校図書館との連携等も行います。

(2) 運営の基本的な考え方

小学校区単位で図書の授受を可能とする区立図書館サービスのポイントとして機能することで区民の身近な読書施設として期待されます。また、小学校という立地を考慮すると、就学前の親子や児童にとって居心地の良い場となることが望ましいと考えます。地域、ボランティア、学校が連携・協働し、図書館活動を中核とした、子どもと地域コミュニティの学びの場として機能するよう運営を行うことが求められます。

また、学校ということ踏まえ、開校中には、児童の安全に配慮し、防犯カメラの設置や区立図書館分館部分と学校図書館部分は、施錠し行き来できないようにするなどのセキュリティ対策が必要です。



(3) 区立図書館サービス

貸出・返却・検索・予約等、区立図書館サービスを提供するため、毎日運行する配送用メールカーを整備する必要があります。

また、就学前の親子に興味を持ってもらえるよう、関心の高いテーマに基づいた棚づくりを行い資料提供の工夫をすることが必要です。

《各種イベント例》

テーマ	ターゲット	テーマ詳細（例）
お話し会	親子	読み聞かせ、わらべうた
		年二回スペシャルお話し会を開催
読書	小学生から	みんなで楽しむビブリオバトル
	ティーンから	哲学カフェ
教育	小学生	調べる学習にチャレンジ
	子育て世代	ママのためのリカレント講座
子育ての課題に関すること	若者から	地域で育てる中野っ子（講師に（仮称）総合子どもセンター、新図書館の子育てアドバイザーなどを検討）
ボランティアの育成	ティーンから	ボランティア講座—子育て支援を中心に—

3. 学校図書館

(1) 学校図書館の位置付け

学校図書館は、『学校図書館法』において、学校教育において欠くことのできない基礎的な設備であり(第1条)、その目的は、学校の教育課程の展開に寄与するとともに児童生徒の健全な教養を育成すること(第2条)とされ、学校に設けなければならない(第3条)とされています。

さらに、学校図書館が児童生徒や教員の利用に供するものであることが明示された上で、その方法として、次の方法が挙げられています(第4条第1項)。

- ◇図書館資料を収集し、児童生徒及び教員の利用に供すること。
- ◇図書館資料の分類排列を適切にし、及びその目録を整備すること。
- ◇読書会、研究会、鑑賞会、映写会、資料展示会等を行うこと。
- ◇図書館資料の利用その他学校図書館の利用に関し、児童生徒に対し指導を行うこと。
- ◇他学校の学校図書館、図書館、博物館、公民館等と緊密に連絡・協力すること。

(2) 運営の基本的な考え方

『学習指導要領』の改訂に伴い、児童生徒の主体的な学びに焦点があてられ、学校における知の拠点としての図書館の重要性がより高まっています。

また、デジタル化の進展もあり、それに対応した学校図書館運営にも留意しなくてはなりません。司書教諭及び学校図書館指導員による学校図書館運営を、次のように補完することが必要です。

- ◇現行の学校図書館指導員の配置に加え、教員、児童・生徒に対応するため時間拡大を行うことが望まれます。
- ◇「(仮称)学校図書館コーディネーター」が、研修の運営等を行うことにより、学校図書館指導員のスキルアップに活用できる材料を提供するとともに、区立図書館と学校図書館をつなぐ支援をすることが考えられます。
- ◇学校図書館システム導入とあわせて、学校間の蔵書の相互利用や、区立図書館所蔵資料の学校図書館での予約・受取のため仕組みを整備することが望まれます。

(3) 教員、児童・生徒との関係性の見直し

現在の学校図書館については、各小・中学校に配置されている学校図書館指導員の業務時間(月16日、1日4時間)によって制約を受けている側面があります。授業による活用については、担任教諭が対応できますが、それ以外の時間については、教員の業務多忙等を踏まえ、閉館状態になることも少なくありません。

学校図書館ということを考えると、教員、児童・生徒とのより密接な関係性の構築が重要であり、利用時間等の向上を図る必要があります。

(4) 学校図書館システムの導入によるサービス拡充(検索・予約・インターネット閲覧)

2020年度に導入予定の学校図書館システムについては、中野区立図書館システムと連携(個人情報等は別管理)し、自校の蔵書管理、貸出・返却処理の電子化だけでなく、他の学校、区立図書館の蔵書検索、団体貸出等を行うことにより、各学校図書館の蔵書を100万冊以上(図書、雑誌、視聴覚資料)の資料で補い、児童生徒の読書や学び、教員の授業に利用できます。

(5) マニュアルの作成について

学校図書館運営に必要な業務内容や事例を記載することで、業務の効率化、定型化、標準化を進め、質の高いサービスを維持・提供することが可能となります。

平成28年、文部科学省の『「学校図書館の整備充実について(通知)」別添1「学校図書館ガイドライン」』では、学校図書館の運営上の重要な事項についてその望ましい在り方を示しています。

学校図書館として、『学校図書館ガイドライン』や全国SLA(公益社団法人全国学校図書館協議会)「全国SLA制定の各種基準」を参考にマニュアルを作成し、また司書教諭を中心として各校で学校図書館の運営方針、年間計画、利用規定、図書館評価、収集方針、選定基準・廃棄基準等について具体的な基準を作成することが必要です。

IV (仮称) 統合図書館システムの構築・運営

1. 整備計画

(1) 区立図書館システム (リプレース)

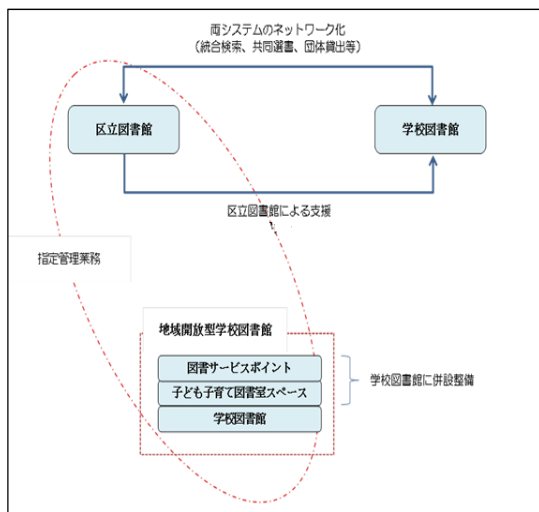
- ①実施時期
2019年12月(11月までは現行システムが稼働)。
- ②対象規模
区立図書館 8館(2019年12月現在)

(2) 地域開放型学校図書館に配備するシステム

- ①配備時期
2020年～(地域開放型学校図書館の整備に合わせて配備)
- ②配備機器
業務端末2台、検索端末1台
- ③システム内容
区立図書館システムと同一。

(3) 学校図書館システム

- ①配備時期
2020年4月 全小・中学校
- ②配備機器
業務端末2台、検索端末1台
- ③システム内容
独立システム
(区立図書館システムとは別システム)
→蔵書検索、学校への団体貸出等については、Web上で連携(個人情報、データベースは区立図書館システム、学校図書館システムそれぞれのサーバ等で管理)。



2. 区立図書館システム (リプレース)

(1) 整備の基本的な考え方

2019年11月をもって、前回リプレース(平成26年12月)から5年が経過し、リース期間が終了すること、また、OSがWindows7であること、前回リプレース時ではスマホ等の利用が少ないと同時に、昨今のネット予約等の増加(非書架閲覧型サービス利用)、通信回線の安定性の欠如等を踏まえ、①検索機能の強化、②ネット(特にスマホ・タブレッ

ト)への対応強化、③非書架閲覧型利用者を意識したサービスの導入、④学校図書館との連携機能の構築を図ることがメインテーマとなると考えます。

(2) 主な整備点

- ①蔵書管理、貸出・返却等図書館業務の電子化(継続)
- ②検索機能の充実
- ③ネット環境の強化(OPACのWEB化、スマホ対応の強化、メール機能の充実～新刊案内、返却期限等のメール通知等)
- ④統計情報の有効活用
- ⑤堅牢性・安全性の向上(サーバのデータセンター一元化、ネットワークの強化等)
- ⑥学校図書館システムとの連携
- ⑦ICタグ貼付による日常管理(自動返却により返却時点で貸出可能の有無が周知される)、蔵書点検の迅速化等管理業務の強化、BDSゲート設置による所在不明図書の減少が図られます。
- ⑧予約室の導入によるネット環境等に対応したサービスの構築(中央図書館、新図書館)

(3) その他

ICタグ貼付による自動貸出等のサービスについては、設置場所、設置による人員削減効果等を考慮し、中央図書館、新図書館等の一定規模を有する図書館に導入することが望ましいと思われます。

また、区立図書館、新図書館、地域開放型学校図書館については、同一システム下の運用を行い、総合的なサービス管理を行うことが望まれます。

3. 学校図書館システム (新規導入)

(1) 整備の基本的な考え方

学校図書館へのシステム新規導入(スタンドアロンでは、小学校2校、中学校5校で導入実績あり)。今回整備においては、区立図書館を含めたネットワークシステムの構築を基本とし、単なる一校ごとの蔵書管理、貸出処理システムではなく、自校図書館の他、他校、区立図書館蔵書の検索も可能とし、調べ学習、アクティブラーニング等の学習支援機能の充実を図ることが必要です。

(2) 主な整備点

- ①蔵書管理(バーコード方式)
- ②貸出・返却処理
- ③蔵書検索(自校、他校、区立図書館)
- ④他校図書との相互貸借
- ⑤区立図書館との相互貸借
- ⑥区立図書館への団体貸出依頼・受入れ(これを利用して学校図書館における企画展

示等の強化が可能)

- ⑦児童へのブックリスト配信
- ⑧生徒へのメルマガ配信
- ⑨区立図書館蔵書の個人による借受・返却

(3) その他

(2) 主な整備点については、システム内容としての整備であり、教育現場への適用であることを考慮し、児童・生徒の利用形態については、別途検討が必要だと思われます。

また、今回のシステムについては、区立図書館システムとの連携に重点を置き、図書利用も含めた連携事業の枠組みの中、最適なシステムを構築し、より学校現場に適したものとする必要があります。